

GREEN ニュース

環境アドバイザー連絡協議会

代表 須永 徹

平成 30 年 3 月発行

～福島県三春の滝桜～



以前から観に行きたかった桜です。昨年の4月、主人の実家にお墓参りのため出かけた帰り寄り道をして観ることが出来ました。それは見事なベニシダレザクラの巨木です。三春の地名は桜と同時に梅と桃の花が咲く事から付いたと言われています。さあ～今年は何処の桜を見に行こうかしら？

群馬県環境アドバイザーの動き

(平成 30 年 3 月 20 日現在)新規登録 118 名

第 10 期(登録期間:平成 27 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)です。新規登録者を含め平成 30 年 3 月 20 日現在、男 234 名 女 94 名、計 328 名です。

自然環境部会 76 名 温暖化・エネルギー部会 56 名
ごみ部会 47 名 広報委員会 21 名が登録し活動されています。
送付方法、メール 168 名 封書 160 名

群馬県の環境情報サイトに、

環境アドバイザーのページ開設



<http://www.ecogunma.jp/>

環境アドバイザーのページへ直接アクセスは、下記 URL へ

<http://www.ecogunma.jp/?p=3058>

目次(執筆者)

表紙画像・文 野呂 久子(吉岡町)

P2 環境政策課

P3 環境政策課

P4 代表、副代表から

P5 副代表から

P6 各部会から

P7 各地区から

P8 各地区から、編集後記、環境政策課より



群馬県のごみ減量の取組について

群馬県環境森林部廃棄物・リサイクル課企画指導係

1 群馬県のごみの現状

環境省が公表した一般廃棄物処理実態調査（平成 27 年度実績）によると、群馬県における 1 人 1 日当たりの一般ごみの排出量は 1,031 g で全国ワースト 3 位という状況です。また、家庭から排出される可燃ごみ（生活系収集可燃ごみ）は、一般ごみの約 6 割を占め、1 人 1 日当たりの排出量は 575g と、全国ワースト 1 位です。

一方、平成 26 年度に実施した県民意識調査では、約 8 割の回答者が群馬県のごみの実状を知らないという結果でした。

2 これまでの取組

県では、こうした状況に対応するため、平成 28 年 3 月に群馬県循環型社会づくり推進計画を策定し、平成 31 年度における県民 1 人 1 日当たりの一般ごみの排出量を 913 g 以下にする目標を掲げるとともに、生活系収集可燃ごみの減量化を対策の柱として位置付けました。

県民の皆さんには、「食べきり・使いきり・水きり」（3きり運動）や、宴会などでの食べ残しを減らす「ぐんまちゃんの 30・10 運動」（最初の 30 分と終わりの 10 分は、自分の席で食事を楽しむ）の実践、マイバッグの利用、ごみの分別の徹底を呼びかけているところです。引き続き、ごみの減量に向けた意識改革と、ライフスタイルの見直しをお願いしています。

事業者の方々には、レジ袋の削減、簡易包装の推進等、ごみを発生させない取組への協力を継続して要請しています。特に、飲食店、宿泊施設及び食料品小売店を対象に、昨年 9 月に開始した、小盛やハーフサイズメニューの設定、量り売り・ばら売り等により食品ロスを削減する「ぐんまちゃんの食べきり協力店登録制度」に、より多くの店舗が参加するよう呼びかけています。

さらに、県や市町村でのリユース食器の率先利用、店頭回収など県民の皆さんが利用しやすい資源ごみの回収ルートの周知等も、ごみの減量に効果的であることから、積極的に推進しています。

また、生ごみの減量をテーマに環境アドバイザーの皆さんと協力して開催した昨年の「みんなのごみ減量フォーラム」には、過去最多の 140 名を超える方が参加し、活発な意見交換がされました。

3 今後の取組方針

引き続き、県民の皆さんに対しては 3きり運動や 30・10 運動の普及・啓発などに、事業者の方々に対しては食べきり協力店への登録要請などに取り組みます。

特に、重点的に取り組んでいる生ごみの減量を進めるため、群馬県環境情報サイト（ECO ぐんま）に 30・10 運動の卓上型三角 POP を掲載してダウンロードできるようにするほか、残り物や野菜の皮などを使った食べきり（アレンジ）レシピのコーナーを設けます。

さらに、「ごみの本」「ぐんまのごみの減らし方」に代わる、新たな啓発冊子を作成します。

県では、今後とも、市町村と連携し、また、県民や事業者の皆さん、関係団体等の理解と協力を得ながら、ごみの排出削減を図り、環境への負荷が少ない循環型社会の構築を目指します。

環境アドバイザーの皆さんには、地域のリーダーとして積極的な活動をお願いします。



平成29年度レジ袋削減店頭啓発活動について

日頃、本協議会の運営に多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、レジ袋削減に向けた店頭啓発活動について、今年度は各市に1店舗モデル店を指定して10月から毎月1回店頭啓発活動を実施し、合計約18,500人に啓発を行いました。

アドバイザーの皆さんには、11市において48回・131名のご参加をいただきました。ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

来年度のレジ袋削減の取組については、3月に実施したレジ袋辞退率調査の結果をとりまとめたうえ事務局で検討し、来年度の「環境にやさしい買い物スタイル普及促進協議会」の総会において提案させていただきます。

今後とも、レジ袋削減の取組にご協力いただきますようお願いいたします。

啓発活動実施状況

※網かけ部分がアドバイザーの方々に参加いただいた活動です

モデル店	実施日時						参加者数 ※アドバイザーのみ
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ベシヤ前橋モール店 上泉町680-1	3日(火) 10時～12時	1日(水) 11時～12時	6日(水) 11時～12時	5日(金) 11時～12時	1日(木) 11時～12時	1日(木) 11時～12時	3名
ベルク飯塚店 飯塚町123-3	2日(月) 10時～12時	1日(水) 10時～12時	6日(水) 10時～12時	9日(火) 10時～12時	1日(木) 10時～12時	5日(月) 10時～12時	32名
ヤオコー桐生相生店 桐生市相生町1-124-1	4日(水) 10時～12時	7日(火) 11時～12時	6日(水) 11時～12時	10日(水) 11時～12時	7日(水) 11時～12時	7日(水) 11時～12時	7名
コープぐんま宮子店 宮子町3523-1	10日(火) 10時～12時	7日(火) 10時～12時	5日(火) 10時～12時	9日(火) 10時～12時	6日(火) 10時～12時	6日(火) 10時～12時	2名
とりせん太田八幡店 八幡町29-13	4日(水) 10時～12時	8日(水) 11時～12時30分	6日(水) 11時～12時30分	10日(水) 11時～12時30分	7日(水) 11時～12時30分	14日(水) 11時～12時30分	19名
フレッセイ沼田店 材木町292	2日(月) 10時～12時	1日(水) 10時～12時	4日(金) 10時～12時	10日(水) 10時～12時	1日(木) 10時～12時	5日(月) 10時～12時	13名
カスミ館林店 新宿1-18-3	6日(金) 10時～12時	10日(金) 10時～12時	8日(金) 10時～12時	12日(金) 10時～12時	2日(金) 10時～12時	2日(金) 10時～12時	4名
ベシヤ渋川こもち店 吹屋657-30	4日(水) 10時～12時	1日(水) 10時～12時	6日(水) 10時～12時	10日(水) 10時～12時	7日(水) 10時～12時	7日(水) 10時～12時	11名
コープぐんま藤岡店 藤岡2390-1	2日(月) 10時～12時	2日(木) 10時～12時	1日(金) 10時～12時	9日(火) 10時～12時	1日(木) 10時～12時	1日(木) 10時～12時	—
フレッセイ富岡店 富岡501	4日(水) 10時～12時	1日(水) 10時～12時	6日(水) 10時～12時	10日(水) 10時～12時	7日(水) 10時～12時	7日(水) 10時～12時	18名
JAファーマーズ安中店 原市634	6日(金) 10時～12時	1日(水) 10時～12時	1日(金) 10時～12時	10日(水) 10時～12時	1日(木) 10時～12時	1日(木) 10時～12時	17名
Aコープ笠懸店 笠懸町鹿2916	2日(月) 10時～12時	1日(水) 10時～12時	5日(火) 10時～12時	10日(水) 10時～12時	1日(木) 10時～12時	1日(木) 10時～12時	12名
						合計	136名

ご協力ありがとう
ございました！！



事務局：群馬県環境森林部環境政策課
環境活動推進係 古屋

電話：027-226-2821

FAX：027-243-7702

E-mail：ecosusumu@pref.gunma.lg.jp

第10期を終えて

環境アドバイザー第10期の代表を努めさせていただきました。

この3年間大過なく終えることができたのも、アドバイザーの皆様、役員の皆様そして県のご担当者各位のお力添えがあったことです。厚く御礼申し上げます。

さて振り返ってみますと、この3年間で出来たことと未完成だったことがあります。私が代表になって考えたことは、まずそれぞれの部会活動の基本を県の担当部門方針に沿った形で行っていただきたいと思い、毎年度の初めにそれぞれの部門からのお話を頂くことから始めました。このうち特に廃棄物リサイクル課とは「みんなのごみ減量フォーラム」を、環境政策課とは「群馬県環境フェア」や「マイバッグ・キャンペーン活動」を共に行うことができました。

今後も県との共通認識をした上で活動を行っていければと存じます。

また反省点としては部会参加者が限られてしまい、なかなか新しいメンバーに活動へ参加してもらえないことや、全体的に高齢化が進む中で若いメンバー獲得が出来なかったことがあげられます。これらは会議等の開催日や時間等の工夫をはじめ、若い人たちのイベント等への参加による会員勧誘なども行う必要があるのではないかと感じました。

最後に。我々は環境問題に関心を持つ有志の集まりである環境アドバイザーです。地域での活動や県の施策推進の旗振り役として、皆様の益々のご活躍を期待致します。

代表 須永 徹

.....

「アドバイザーの10期の活動を振り返って・・・」

この10期に入った際、副代表という大役を仰せつかったのは環境アドバイザーとなって4年目の時です。

第10期を終える今、3年間で振り返りますと、副代表という立場での私にとって大きな関わりとなったことが2つあります。一つは広報委員会です。

今まで広報という仕事は全く未経験の私に何が出来るのか？

代表・副代表が交代で編集を担当すると決まった後、担当になる度に不安の連続で、先輩の代表・副代表・県の方々に聞きながら、助けていただきながらの3年間でした。

そんな毎回の新聞作りも、何とか発行にこぎつけてきたという私です。

改めて、広報委員会の皆様には感謝の気持ちです。本当にありがとうございました。

もう一つは、県との共催で開催の「みんなのごみ減量フォーラム」です。

私が県の「エコカレッジ」の受講を申し込んだきっかけとなったのが、東京から吉岡町に移り住んだ時に、感じたごみのことだったからです。

そのエコカレッジで群馬県の自然やのゴミ問題や部会の活動の様子も知ったのです。

その後、このフォーラムとの関わりで、ごみといっても生ごみ、廃食油、レジ袋等々や3Rのことなど改めて広く学ばせていただきました。

ごみ減量の活動はとても地味かもしれませんが、この小さな活動の積み重ねの大切さは活動をされている皆様にとって周知のことと思います。

活動や情報を共有しながら、更なる来期の活動につなげて頂きたいです。

末筆になりますが、今期副代表を仰せつかりながらも皆様のお役に立てなかったことだけでなくご迷惑をおかけしましたことお詫び申し上げます。

副代表 野呂久子

「3年間のアドバイザー活動を振り返って」

平成27年にスタートした第10期環境アドバイザーも今年の3月で3年が経過し、更新時期を迎えます。この間、アドバイザー連絡協議会の副代表をとして協議会全体の運営とごみ部会の企画・運営に関わってきましたが、アドバイザーの皆さまのご意向の把握と活動への反映が思うようにできませんでした。お詫び申し上げます。

アドバイザー連絡協議会としての3年を振り返ると、いくつか成果があげられます。一つは、県と共催の「みんなのごみ減量フォーラム」です。29年度で5回を数え、県との連携により充実したイベントとして継続開催しています。29年度は、環境アドバイザーの提案による“みんなのごみ減量フォーラム宣言”を行い、ごみ減量の取り組みを県民運動として展開する機運が高まりました。

二つ目は県のイベントである「環境フェスティバル」に継続して出展し、環境アドバイザーの存在と活動を広く県民の皆さんに紹介し、問題提起と行動の呼びかけが出来たことです。特に29年度は、アンケートやパネル・エコグッズ展示を通じて、部会の活動やごみ問題、自然環境問題などを紹介し、具体的な行動を呼びかけました。

三つ目として、アドバイザーが地域で集まりを持って活動（地区会の開催、地区会として地域のイベントへの出展などの啓発活動、市町村との連携など）することが着実に増えていることです。

世界各地で、熱波、干ばつなどの異常気象・極端現象が頻発しており、また、気候変動を示す指標（二酸化炭素濃度の上昇など）も悪化していることから、温暖化対策の加速が求められています。

平成30年度の環境アドバイザーの更新にあたって、自らの3年間の活動を振り返ると共に、現状の地球環境問題を再認識し、緑豊かな地球を未来に引き継ぐためにこころ新たに取り組みましょう。

副代表 吉澤 敏則

.....

10期を振り返って

副代表として大きな県との共催事業の「群馬県環境フェスティバルヤマダ電機 LABI1 高崎」「みんなのごみ減量フォーラム=県庁、ぐんま男女共同参画センター」「環境にやさしい買い物スタイル=県下の12市のスーパーマーケットの出入口」で開催してきましたが、環境フェスティバルは会員の参加や見学が少ないように感じました。環境アドバイザー連絡協議会には自然環境部会、ごみ部会、温暖化・エネルギー部会、広報委員会があり、副代表として出来るだけ多くの部会に参加してきました。この3年間を見ているとその部会への参加者は減少してきているようにも感じました。その原因は何処にあるのか考えてみるべき時だと思いました。例えば自然環境部会は実践の場所が高山村と遠隔地の為とも思える。しかしこの2年は他の地域との連携で館林の渡良瀬遊水地観察会、みどり市のカッコソウ見学会、(株)チノー藤岡事業所のビオトープの見学等にて、その地区の方々も参加できる工夫は一考の価値があるように思えた。

ごみ部会も県共催のみんなのごみフォーラムに全面協力してきました。地域でできるごみ問題勉強会も良い意見ができましたが、その集約を県、市町村へのお願いと情報提供して行くなどしてゆくと良いかと思った。温暖化エネルギー部会は学童保育等でエネルギー教室を開催したり、積極的にエネルギーの大切さを地域に実践を通して広めて行き良い企画と思いました。ただ会員への次回の開催場所連絡はインターネットでの連絡となり、一般会員へ行きわたらない面が見受けられた。

広報委員会は主担当が副代表の持ち回りとなり、会員の方々への連絡方法に問題があり、会員の集まりが少なくなってきました。

現在の登録会員数は326人ですが開かれた部会に参加しやすい方法はどうすればよいか？

地区から幹事を出しているが、幹事会をしても集まりが悪く、地区会を充実して登録者が地区でも活動できるよう地区会の再活性化が必要に思えました。

地球の温暖化対策としてごみ、エネルギー、自然への対策を会員以外の方々も身近に感じて頂ける活動するアドバイザーとなりたい。

副代表 原田 邦昭

ごみ部会 第10期を振り返って

あっと言う間に3年が過ぎ、第11期になろうとしています。しかし時は誰にでも平等に経過している筈なので、これは個人的な感想と言うべきでしょうか。

この3年を振り返ると、実に感慨深いものがあります。ごみ部会の事例発表会から出発した「みんなのごみ減量フォーラム」が5回目を迎え、今は6回目の準備に入っていること。レジ袋削減キャンペーンや環境フェスティバルへの参加などを通じ、ごみの減量に関する意識は高まってはいるが、まだまだ広がりやを欠いているのではないかと思います。

ごみ部会では、ごみの減量を図るための話し合いや勉強会を続けてきました。3Rの推進から食品ロス削減、生ごみの3きり運動、宴会30・10運動、雑草や生ごみの乾燥実験、リサイクル品目、行政との協働などのテーマでした。ごみ処理費用の有料化問題は、次の第11期でも重要テーマの一つになると思われます。県内でもごみ指定袋の有料化を既に実施している自治体もあり、指定袋の価格も様々です。先行自治体の詳細なデータを取得して、入念に検討することや、ごみステーションに関わる市民の意見を集約することも必要です。いずれにしても、商品購入の抑制やモノを大切に使用する意識の向上が、ごみ問題の大きな前提となるのではないのでしょうか。

ごみ部会長 山田一朗

温暖化・エネルギー部会 第10期を振り返って

部会では学童保育児童への環境教室、他環境団体イベントへの参加、上野村バイオ発電所見学、学習会等を実施いたしました。皆様の参考となりましたでしょうか。

さて今年は偏西風、ラニーニャの影響、による異常気象と言われ日常生活に多大なる被害をもたらしました。本年11月にポーランドで予定されているCOP24を前に先日IPCCの新たな知見概要がプレスに載りました。パリ協定の温暖化抑止目標2°Cでなく1.5°Cに抑えなければならぬとのコメントがされました。

さて温暖化対策の為、再生エネルギー利用によるエネルギーシフトの政策がドイツ等で策定され全発電量の30%以上を風力、太陽光による再エネにするとの施策です。一方わが国では発電量の72%石炭、天然ガス、わずか8%再エネ(2015年度環境エネルギー政策研究所データより)の状況で高機能の石炭火力発電、及び原発に頼るとの世界の流れか一步遅れた施策のように思われます。このような時点で私達はまず身近な所からエネルギーを考えることが必要と思われます。省エネを考えたエコライフ、化石燃料の効率的な使用及び削減等身近な所から行動を起こすことが必要です。

次世代次世代未来に負荷を残さない為に行動しましょう。

尚この3月で第10期は終了いたします。私事になりますが皆様にご迷惑を掛けたことここにお詫び申し上げますと共に部会運営にご協力感謝いたします。

温暖化・エネルギー部会長 加藤 幸輝

自然環境部会 第10期を振り返って

宮崎前部会長が環境アドバイザー登録を更新されなかったので相談の結果、飯塚前々会長に副会長として助けていただき会長を引き継ぎました。

自然環境(保護)と言っても範囲が広過ぎるので、具体的活動を考えました。

1. 隔月第二土曜(原則)前橋元気21での例会(特に各地区の活動実績や計画を紹介し交流する)

参加者が5~10名程度と少なかったのが残念です。

2. 高山村平地林の管理を復活させる

年5~6回実施し、葛の処理、下草の整理を行いきれいになりました。秋には栗拾いやキノコ採りもできました。もう少し近い場所も検討中。

3. 勉強会、見学会、講演会など

みどり市のカッコソウ自生地の見学、渡良瀬遊水地見学、外来生物勉強会、

(株)チノー・ビオトープ見学会、観音山観察会、等を実施しました。

その他、会員への情報伝達手段として毎月「自然環境部会たより」をお送りしました。これは毎月20日締めで環境政策課(サポートセンター)に送れば月末に皆さんの手許に届ける事ができ、タイムリーなお知らせが可能です。

ぜひ新年度も自然環境部会に登録をお願いします。次期は皆さんと相談しながら更に活動を深めてゆきたいと考えております。どしどしアイデアやご意見をお聞かせ下さい。

自然環境部会長 田中 和夫

環境にやさしい買い物スタイル普及促進のための店頭啓発活動（太田市）

太田市の活動は清掃事業課が窓口となり、とりせん太田八幡町店で実施しています。時間帯はお店の意向も考慮し 11時から 12 時 30 分頃まで、入口 2ヶ所でマイバック利用に係る啓発活動と店内レジ付近でマイバック利用調査を市の職員が毎回行っています。

市民の参加者はアドバイザーや推進員、地元の団体等で 10 月 5 名、11 月 5 名、12 月 6 名、1 月 4 名、2 月 2 名と人数は多くありませんが、市の職員と協力しコミュニケーションを図りながら活動を行っています。2008 年に実施したとりせん下田島店のデータではレジ袋を受け取らない人は約 20%でしたが 2 月までの調査では平均 32%で、60 代が 40%と最もよく 20 代が 20%と低くなっています。

また男女別では女性が約 60%に対し男性は約 20%と大きな差があります。太田市も第 2 次画環境基本計画の推進にあたる「太田市環境創造協議会」が発足しますので連携して啓発活動を続けゴミの削減を図っていきたいと思います。



太田市 西村 豊

モデル店における環境にやさしい買い物普及啓発 ～～渋川・北群馬地区の活動報告～～

渋川・北群馬地区は、渋川市の環境課に窓口になっていただき、環境アドバイザーと渋川の暮らしの会のメンバーとで実施いたしました。

モデル店は子持ちのベイシア店で、平成 29 年 10 月から平成 30 年 3 月までの計 6 回、朝 10 時から 12 時までの 2 時間行ないました。

ベイシアの入口の 2カ所 2つの班に分かれ、それぞれマイバック持参、ごみ減量を呼びかけました。

入口が北向きの為、北風がとても冷たく震えてしまう日もありました。

最後の 3 月 7 日にはレジ近くで、目視でのレジ袋辞退のチェックとマイバック持参のアンケートもしました。



集計はまだですが、おおよそ 70%近くの方がマイバック又はマイバスケットを持参していてこの運動の成果の表れだとも感じました。

今回初めて市の職員の方々との連携で行なったことは、市の方々とのコミュニケーションも図ることができとても良かったと思います。

そしてなにより、少しずつですがレジ袋削減に繋がっていることを実感しました。

これからもこの啓発活動の継続が必要だとも感じました。

渋川市 野呂久子

「安中地区 マイバッグ店頭啓発活動報告」 ～マイバッグ持参とともにごみ減量も呼びかけ！～

安中地区連絡会では、今年度もレジ袋削減に向けた店頭啓発活動を行いました。一つは、指定店舗（JAファーマーズ安中店）で10月～3月まで毎月一回、安中市環境推進課管轄のもとで環境にやさしい買い物スタイル普及促進協議会メンバー（くらしの会、婦人会、環境アドバイザー）で月を分担して実施。もう一つは、12月に環境アドバイザーが市内の4店舗（ヤオコー安中店、新鮮市場かっちゃん、ベイシア安中店、カワチ薬品安中店）を選択して一日2店舗×2日を環境保全団体とともに実施しました。期間中のアドバイザーの参加人数は8日間で延べ32名でした。

指定店舗のJAファーマーズのマイバッグ持参率は、10月、11月では50%弱でしたが、最終月の3月では50%を超えており、啓発活動の継続の効果が表れているようでした。

今年度の取り組みの特筆事項として、①環境アドバイザーから市に指定店舗の協議会メンバーの担当を月毎に分けることを提案し実行したこと、②安中市は、29年～30年にかけてごみ処理施設の改修工事を行っておりごみ処理能力が低下していることから、店頭啓発時に家庭のごみの減量と呼びかけるちらしと一緒に配ることを環境アドバイザーが提案し、市がちらしを作成して配布したこと、があげられます。

これからも啓発の方法などを検討しながら、少しでも異常気象・極端現象の増加を抑えるためにも、継続して取り組んでいきたいと思えます。



安中市 磯貝 享子, 吉澤 敏則

編集後記

GREEN ニュース第73号をお届けします。

第10期の最後ということで、各役員・部会長からこの三年間を振り返って頂きました。

さて、このGREEN ニュースは皆様のお役に立っているでしょうか？

これからも県内の環境に関わるニュースやイベント情報、皆様が日頃感じていることなどを積極的に取り上げ、紙面に反映させ、更にお役に立てていきたいと考えていますので、ぜひ皆様からのご投稿をお待ちしております。

代表 須永 徹

平成30年4月1日より『群馬県環境アドバイザー第11期』が始まります。

登録更新をお済みで無い方は、お早めに更新手続きをお願い致します。



群馬県環境アドバイザー連絡協議会事務局（県環境政策課）

担当：松原、登坂

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1

TEL：027-226-2827

FAX：027-243-7702

メール：ecosusumu@pref.gunma.lg.jp